

戦争を許さない女たちのJR連絡会



いのち輝く

女たちのピーストレイン

〒141-0031 東京都品川区西五反田3-2-13 JR総連内 ☎03-3491-7191 JR 057-4596

美世志会の無実を訴え、全国から要請行動に参加

「女たちのJR連絡会」は、JR浦和電車区事件の美世志会の無実を訴えるために、7月20日と9月26日の両日、最高裁要請行動をおこないました。

とりわけ9月26日の要請行動には、これまで参加できなかった全国の仲間呼びかけて希望を募り、定員の17名で要請しました。初めて行く最高裁に戸惑い、緊張を覚えながらも、逮捕から9年をむかえる7名とその家族の苦しい立場に身を置き、「7名から直接話を聞き、無実を信じている」、「当たり前労働運動がなぜ犯罪とされるのか」、「無実の人が犯罪者にされてはならない」、「私たちの声は本当に上部に届いているのか」と、一人ひとりが自分の言葉で訴えました。

要請終了後、参加者は在京の仲間と合流し、総勢38名で新宿駅頭にて横断幕やのぼりを立て、JR浦和電車区事件の無実を訴え、ピラを配布しました。

現在、JR浦和電車区事件は最高裁で審理中で、いつ結論が出るのか予断を許しません。「女たちのJR連絡会」は、7名の仲間たちの無罪を勝ちとるために出来ることはやりぬこうと決意しています。全国のみなさん、最後まで頑張りましょう！



▲新宿駅の街宣行動



▲最高裁要請行動の参加者と見送る仲間たち

要請行動
大潤慶逸
上空を
眺めて吐息
熱く吐き
向かいし仲間
見つめて送る

◆投稿◆

同じ親として訴えました

私は美世志会の支援者ですが、この数年育児に専念していました。声がかかった時、自分の中で事件が薄れ、何もしていない後ろめたさもあり、断る理由を考えていました。しかし、上原さんが逮捕された時、幼かった娘さんに「捕まった」と言えず8年経た今年になって打ち明けたとの話を思い出し、7名は今も犯罪者にされたまま、上原さんも親であり家族がいる。私も同じ親として、と参加を決めました。



▲7月20日の要請行動で

どうすれば通じるか。きっと裁判所の人は冷酷で私の要請なんか聞かないだろう。のれんに腕押しかも知れないが、私の立場で意見を伝えようと考えました。ありがたいことに、大船支部のOさん、横浜地本副委員長の上原さんが子どもたちの面倒を見てくれるというので、当日は不安そうなる3歳の娘と、わけがわかっていない4カ月の息子に「じゃ！お母さん頑張ってるからね！」と言い、自分に喝を入れ現地へ。

初めて行く最高裁判所は、緊張と不安で自分が折れそうでした。しかし子どもたちと7名に応援されている気がして、無罪であることと、自分の迷いと決断、子どもを預けて来たこと、事件をきっかけに、公平な世の中を願う息子の名を「こうへい」と名付けたことだからこそ最高裁判所は独立した機関で公平な審理をして欲しい、と訴えることができました。

担当官は想像と違って人間味があり、丁寧な対応でした。手応えを感じて気が付いたのですが、私は裁判所を敵視し、そこで働く人まで敵だと勘違いしてしまいました。同じ労働者です。私たちの闘う相手は目に見えない「権力」です。そう思うと、この闘いはとても重いものだと思えました。そして久しぶりの会った仲間は、私に沢山の声をかけてくれる心温かい存在だと感じました。

横浜・梶田久美子(家族)

忘れてはならない！「虎石溝万人坑紀念館」

中国平和研修に参加して

9月1日～5日までJR東海労新幹線関西地本主催の中国平和研修に「おりづるの会」から5名が参加し、大連、大石橋、瀋陽、撫順、北京というコースをめぐりました。

ショックだったのは大石橋市にある虎石溝万人坑紀念館の状態でした。6年前にリニューアルしたにも関わらず、天井は所々抜け落ち、壁にはカビが生え、激しく痛んでいました。特に許せなかったのは遺骨館の遺骨が雨水や湧き水によって大半が水没していたことです。強制労働を強いら



れ、苦しみ、無念にも命を奪われた犠牲者の遺骨。それが今また、冷たい水の中に沈められているのです。とにかく一刻も早

く水を抜いて欲しいと、研修参加者全員の総意で緊急カンパを現地で取り組み、水抜きのお願いをしました。

ここは撫順にある「平頂山紀念館」や北京の「抗日戦争紀念館」に比べると訪問者も少なく放置されています。しかし、へき地にある紀念館だからということで忘れ去られていいのでしょうか。黙祷を捧げながら「何とかしたい！」という思いを強くしました。今後も私たちに出来ることを仲間のみなさんと相談していきたいと思ひます。

おりづるの会 小林由美



子どもたちに原発のない社会をのこしたい

9.19脱原発アクションに参加して

9月19日、「原発反対!」「命を守れ!」の連呼に呼応して6万人の怒りの声が明治公園に響き渡った。

エンジェルの仲間誘われて参加した「さよなら原発集会」には、放射能汚染により、命や生活を脅かされた福島県からも多くの人が参加し、「脱原発」を叫んでいました。その瞬間まで命が育まれ生きる環境だった「ふるさと」を突然奪われた怒りと悲しみを、私たちが少しでも共有しなければとの思いを胸にデモ行進しました。

チェルノブイリの教訓が生かされていないばかりか、「原子力の平和利用」とばかりに国策として推進してきた原子力政策によって、原発容認派と反対派の対立による地域社会の変容や作業員を含む被ばく者の増大、先の見えない放射能汚染ゴミ処理問題など深刻な事態をむかえています。地球・生物の未来を奪う権利は誰にもないはずで



私たち大切な命を育む女性として、何としても、子どもの命を守らなくてはなりません。目に見えない被ばくの恐怖に曝され、「母になりたい」という、女の子であれば当たり前の夢を潰してはなりません。安心して子どもを産み育てる環境を未来の子ども達に残すためにも「全ての原発はらない!」のです。 エンジェルOB 仁平恵子

原発から子どもたちの未来を守りたい

紙しばいで学んだ**原発の危険性**

ななかまどのつどい開く

10月1日、北海道青年会館にて「第18回ななかまどのつどい」を開催し、全道各地から60名の家族・書記・組合員が参加しました。

今回のつどいには、泊原発のある泊村の隣町、岩内町出身で、33年前から泊原発の

温排水の影響を調べるために海水温の計測が行われている、岩内原発問題研究会代表の斉藤武一さんを講師にお招きし、講演していただきました。

斉藤さんは、現在自宅で学習塾を運営されていますが、以前保育士をされていたことから、難しい原発の仕組みや用語・私たちの体に及ぼす影響などを、紙芝居を使って、元保育士ならではの解りやすい講演をしていただき、参加者全員熱心に聞き入りました。

講演終了後には、庭山書記（北海道労組中央本部）から、7月17日～21日の間、連合本部主催の被災地救援ボランティアに参加した活動の報告を受け、さらに荒木永子さん（家族）から、9月26日に行われた「女たちのJR連絡会」



による、えん罪JR浦和電車区事件の最高裁要請行動に参加した感想が報告されました。

3.11以降半年が過ぎ、被災地では少しずつ復旧・復興にむけ動き出していますが、原発問題については被害がどんどん拡大しています。私たち

は、今回の福島第一原発事故により原発の危険性にあらためて目を向け、子や孫の未来を守るためにも脱原発を推し進めていくことが必要だと斉藤さんの紙芝居を通じて再認識しました。



今年も平和を考える有意義な1日となりました。
ななかまどの会

無実のゴビンダさんを救おう

再審と刑の執行停止を求める署名にご協力下さい。

1997年に起きた「東電OL殺人事件」をご存じですか？ 犯人とされたゴビンダ・プラサド・マイナリさん（ネパール国籍・44歳）は、犯人とされ、無期懲役が確定し、現在横浜刑務所に服役中です。しかし一貫して無実を訴えており、2005年3月以来東京高裁に再審を請求中です。

当初からゴビンダさんに結びつく物証や直接証拠は皆無で、一審の東京地裁では、無罪でした（2000年4月14日）。しかし、検察は控訴し、ネパールへ帰る寸前のゴビンダさんの再勾留を請求。前代未聞の人権侵害が強行されました。

控訴審では、検察が新証拠をまったく提出できなかったにも関わらず、2000年12月22日、逆転有罪・無期懲役に。最高裁でも2003年10月20日に

上告棄却、有罪が確定しました。

●DNA鑑定で無実は明らか

今年7月、新たなDNA鑑定の結果、ゴビンダさん以外の未知の人物が事件現場で被害者と会っていた新事実が判明。さらに9月、検察が開示した証拠で、遺体に付着していた唾液はゴビンダさんとは別人のもので、それを検察は捜査段階から判っていたことが判明しました。検察は無罪の証拠を隠していたのです。

●再審開始・刑の執行停止を！

新たなDNA鑑定結果はゴビンダさんの無実の証拠です。「無実のゴビンダさんを支える会」は、現在再審開始と刑の執行停止（身柄の解放）を求め、署名をおこなっています。ゴビンダさんを一日も早く救うため、皆さんのご協力をお願いします。

息子は無実です

北陵クリニック（仙台筋弛緩剤えん罪）事件（2001年）で犯人とされ、無期懲役で千葉刑務所に服役中の守大助さんのご両親にお会いする機会があった。頂いた名刺に「息子は無実です」の文字が…。29歳で逮捕され、11年もの間、自由を奪われ獄中にいる息子さんを思うご両親の心はどんなに辛く切ないだろうか。

その後、大助さんのお母さんからDVD「筋弛緩剤殺人はなかった」（ザ・スクープ）や、えん罪を訴える情報が届いた。なかったはずの事件がねつ造され犯人とされたことを改めて確信した。現在は再審請求を準備中だという。何がわかるかわからないが、えん罪を晴らすために、再審請求を支援したいと思う。（玉）

**ビルマ
便り
No.6**

人々の望みをつないで “民主主義国家ビルマ”への道を

昨年11月、軍事政権下のビルマでおこなわれた選挙で、(軍籍を抜けた)民間人が大統領になりました。その後、大統領側と釈放されたアウンサンスーチー氏との話し合いが始まりました。

それによって、ビルマが本当に民主主義国家に変わるのか、様々な疑問が広がっています。軍の支配が今も続いていることを見れば、国民からは「信頼できない」との声があがっています。しかし、アウンサンスーチー氏は、「ビルマが必ず民主主義国家に変わることを国民に保証する」と発表しました。スーチー氏は国民の命を大切に、死者ゼロで平和的に変化することを望んでいます。ビルマ国民の思いもスーチー氏の望みと一致しますが、軍事政権が騙しているのではないかという疑念も強く持っています。

しかし国内では、政府が少し譲歩しつつあり、インターネットが

自由に使えるようになってきたことや、警察に申請すればデモ行進が認められるなど、大きな変化が見られます。9月12日には、200人以上の政治家たちが恩赦で刑務所から釈放されました。しかし、8888学生運動のリーダーたちはまだ刑務所にいるので、さらに心配する国民がいるのも事実です。

私たちはスーチー氏を信頼し、平和で公平な変化を望みます。ビルマ国民の指導者であるアウンサンスーチー氏の指導に従い、軍事政権への怨みを持たず、広い心で民主主義国家ビルマを迎えたいと思います。

世界の国々の皆様も、軍事政権が少しずつ譲歩し、私たちの望むビルマになるよう、応援していただきたいと思います。

(イテッサン・横浜在住)



連帯しよう

日本軍「慰安婦」問題の
解決を求める韓国水曜デモ
1000回アクション

長い沈黙を破って、元日本軍「慰安婦」として初めて名乗り出た金学順さんに続き、多くの被害女性たちが勇気を持って名乗り出たのが1991年。翌(1992)年1月8日から開始された日本軍「慰安婦」問題の解決を求める韓国水曜デモは、今年12月14日(水)で1000回を数えます。

20年にわたりハルモニたちは日本政府に公式謝罪を求め続けてきました。それは過去の歴史を正しく捉え二度と過ちを繰り返してはならないという、ハルモニたちの心からの叫びであり、平和への希望です。

私たちも、ハルモニたちの意思をつなぎ、日本軍「慰安婦」問題解決に向け連帯しましょう。



10月～12月にかけて全国各地で韓国水曜デモ1000回に連帯する行動が取り組まれています。

BOOK紹介

CDブック 獄中詩集

壁のうた

冤罪・布川事件 再審無罪記念出版

◆高文研 1500円+税



今年5月、冤罪布川事件の桜井昌司さんと杉山卓男さんが43年の闘いを経て、晴れて無罪となった。再審無罪を記念して桜井さんの「壁のうた」が新装丁のCDブックとなって蘇った。布川事件の解説も付加され、桜井さん作詞・作曲の9曲をバリトン歌手・佐藤光政さんが歌うCD付き。辛い獄中生活に耐え、日々のささやかな喜び、悲しみ、故郷への思いや情景が豊かに綴られている。心揺さぶられる詩の数々だ。

祝 おめでとうございます。

布川事件の記録映画

「ショージとタカオ」(井手洋子監督)が
2011年度文化庁映画大賞を受賞!

尹美香・著 梁澄子・訳

20年間の水曜日

日本軍「慰安婦」ハルモニが叫ぶゆるぎない希望

◆東方出版 1500円 変形B5版252ページ

20年間の水曜デモを通して、ハルモニたちが私たちにくださった贈り物は数えきれません。若い私たちがハルモニたちに元気をあげたいと思ってきましたが、いつもハルモニたちから元気をもらい希望をもらってきました。ハルモニたちから「人類愛」とは何か、「平和」とは何かを学び、ハルモニたちのおかげで「私たちの中にある暴力」を知り、「すぐそこにある類似犯罪」に気付くことができました。そして、それらの問題を解決するため、国家の枠組みを越えて手を取り合うことができました。

ハルモニたちが生んだ美しい奇蹟を、より多くの人々と分かち合いたくて、本書を出版しました。

(尹美香さん日本語あとがきより)